



森とおる NEWS

住所 南大塚 2-6-12
電話 03(6912)0135

台風をもたらす地球温暖化

今年台風19号などが猛威をふるい、各地で甚大な被害が相次ぎました。強烈で危険なこれらのスーパー台風は、地球温暖化との関連が指摘されています。近年、地球規模で洪水や干ばつの被害が増えています。気候関連の災害は近年、激増しています。日本でも台風や竜巻、ゲリラ豪雨の災害が多発しており、地球温暖化への対策は最重要課題です。

温暖化による災害増

この40年間の件数が激増

世界中で発生した大規模な自然災害は1970年代までは年間1000件程度でしたが、2000年代以降は400件を超える年が増えてきたとされています。一方、温暖化とは無関係な地震や火山噴火は増えていません。増加しているのはスーパー台風による豪雨

や洪水、竜巻などであつて、異常な気温上昇による温暖化が影響しています。日本でも、毎年のように大水害をもたらす台風が襲来しています。風速が秒速67以上のスーパー台風は、1980年までの約30年間は8・9%でしたが、それ以降は約2倍に増加し



日本をすっぽり覆い猛威をふるった台風19号



各地で豪雨による甚大な浸水被害が発生

ています。専門家は日本近海の海面温度が上昇すればスーパー台風はさらに増加すると指摘しています。

10月の台風19号は、関東

に上陸した台風としては、これまでの最中では最強クラスで、降水量はアマゾン川に匹敵したと言われています。住宅被害は8万棟以上に上り、浸水や損壊したままの住宅で浸水を免れた2階部分などで生活している

被災者が多く、死者は13都府県で90人超です。堤防の決壊は7県140カ所、避難者数は23万7千人でした。

地球規模の気候危機の対策が重要 背を向ける日本とアメリカ政府

今年9月、国連の気候行動サミットでは77カ国が2050年までに温室効果ガスの排出を「実質ゼロ」にすることを表明し、

2020年に本格始動する温暖化防止の「パリ協定」は、産業革命前からの気温上昇を2度未満、できれば

1・5度に抑える目標を掲げます。しかし、国連の報告書では気温と二酸化炭素の排出量は過去最高を記録しています。危機的事態を打開するためには各国が力を合わせて真剣に取り組むことが不可欠です。

ところが安倍政権が3年前に決めた削減目標は主要国では最低レベルで、温室効果ガス削減の目標積み増しに応じようとする安倍首相はサミットに参加せず、小泉環境相が出席しました。こうした日本の態度にサミットでは発言の機会さえ与えられず、国際的な批判は強まるばかりです。

またトランプ大統領は10分程度会場に顔を出したものの発言もなく、地球の課題に背を向ける姿勢が浮き彫りになりました。



これまでは遠い外国の出来事とみられていた竜巻 2012年つくば市で発生した竜巻による家屋被害